

翻訳原稿を手にした皆様へ

2年がかりで、ようやく翻訳が形になりました。

翻訳された文章が英文として理解できるかどうか私にお知らせください。

あなたの意見や感想を踏まえて、再度原稿を書き直し私の仕事を終えたいと思います。

そして、私は米国、英国、イスラエルで私の論考を出版します。

2020年1月9日

成田亨

〒177-0033

東京都練馬区高野台 1-23-20 ガーデンコート高野台 805

携帯：080-9175-4666

naritatoru@gmail.com

<論考の表題「女陰と雌鹿」について>

論考の表題「女陰と雌鹿」は、私の幼少期の思い出に由来しています。私が5歳のとき、女陰が頭に浮かび、近所の学校のグラウンドと道路に落書きしていました。たくさん、たくさん描いていました。私のそういう姿を見て、母は顔をしかめながら

「変な子だ！」

と言っていました。

私は極めて真剣に描いているのですが、母には私の行為に隠されている意味を理解できなかったのでしょう。

淡路島の古代のユダヤ遺跡から出てきた女陰の描かれている「石文」を見て、私が5歳の時の記憶が蘇りました。神は、私の子供時代の記憶に残るようにしてくれたのだらうと思います。

また、私の右の頬には、雌鹿が引っくり返ったようなアザがあります。私が10歳のとき、私のアザに気づき、とても嫌な思いをしてきました。母と一緒に皮膚科医に行き、アザを焼切る治療をしたのですが、アザを取り除くことはできませんでした。顔の骨格が大きくなり、アザは右あごの下に隠れるようになったので気にならなくなりました。古代ユダヤ遺跡の雌鹿の指輪を見て、10歳のときにとっても嫌った雌鹿のアザを思い出しました。鹿はナフタリ族のシンボルです。私の姓は「成田」ですが、「成田（ナリタ）」とナフタリ、2つの言葉は似ていると感じています。

「詩編」22章のサブタイトルに「暁の雌鹿」と書かれていることを知って、私は神の深い御配慮が私の雌鹿のアザにあると感じられるようになっていきます。

私は子供時代に漠然と感じていたことを実現しようとしています。

Dear Jewish people

私は、日本神話と創世記を研究している日本人の成田亨です。私の研究は、阪神・淡路大震災が起こった1995年から始まりました。日本神話の研究のなかで、淡路島には2700年前の古代ユダヤ人の遺跡があることを知りました。2700年前という時代は、エルサレムでイザヤが活動し、アークが失われたといわれる時代です。

私は日本神話を研究し日本の八百万神を信じていますが、モーセの時代、主があなたがたを導き、あなたがたのために戦った出来事を信じています。2700年前、主がモーゼをエジプトから導いたように、古代ユダヤ人たちを淡路島に導いたはずで、海の風が船を運び、海鳥のさえずりがあなたがたを励まし、輝く星、遠くの稲妻、ときおり立ち上がる火の柱があなたがたの進む方角を示し、主は古代ユダヤ人たちを淡路島に導かれたのでしょ。

淡路島という島は、非常に特別な島です。あなたがたには樋口季一郎将軍のお話をしたほうが直感的に理解していただけたと思います。あなたがたのゴールデンブックに日本人の二番目に樋口季一郎将軍が登録されていますが、樋口季一郎将軍は、淡路島で生まれました。樋口季一郎将軍は、1938年3月8日からハルビンのシベリア鉄道オトポル駅で多くのユダヤ人を救出したことで有名です。1945年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し戦争が終結したはずでしたが、3日後の8月18日、ロシア軍が千島列島にある占守島(しゅむしゅとう)に攻めてきました。そのとき、樋口季一郎将軍は正体不明の軍隊が国籍を明示せず戦闘を仕掛けてきたので、撃退しています。この占守島(しゅむしゅとう)の戦いで撃退されたことをソ連のスターリンは恨みに思って、樋口季一郎将軍を戦犯として訴追し、絞首刑に送ろうとしました。これを知ったアメリカ在住のユダヤ人たちは、樋口季一郎将軍の助命嘆願運動を展開し、樋口季一郎将軍の命を救ってくれています。

樋口季一郎将軍は日本人ですが、ひょっとすると2700年前に来日した古代ユダヤ人の子孫なのかもしれません。

神の神秘的な計らいが、ユダヤ人と日本人の間に置かれているようにみえます。

日本の淡路島は日本神話が始まった場所です。イザナギとイザナミは天と地を創造し、八百万神を生んだと言われています。イザナギの妻がイザナミです。日本神話によると、妻のイザナミが亡くなったので、イザナギはお一人で淡路島にいとされています。天にいる母は死んだので、天にいるのは父だけになりました。日本神話では、天の父はイザナギなのです。

古代ユダヤ人が主に導かれて淡路島にやって来たという歴史的事実と、日本の神話は淡路島から始まるという事実は、主が淡路島のイザナギであることを示すか、あるいは淡路島のイザナギが主であることを示しています。

次の時代を開く鍵は淡路島に置かれています。

あなたがたにとって、私の論考はユダヤ人と日本人についての秘密を明らかにする最後の一片になるはずで、そして、私の論考は、ユダヤ人が恒久平和を成し遂げるとい神に求められている使命を果たす扉の鍵になるでしょう。

「エゼキエル」〔Eze 37：1-6〕は、谷にある多くの乾いた骨が生き返ったと預言していました。「エゼキエル」の預言の通り、イスラエルは1948年5月14日に生き返りました。

アブラハム登場以降の中東からヨーロッパは、旧約聖書の預言が示す道を歩んできました。ユダヤ人が神への信仰から離れると異邦人の侵略を受け、信仰の道に戻ると神の祝福を受けてきました。

ユダヤ民族の国家は西暦73年のマサダの戦いを最後に歴史から消え去りましたが、1900年近い時の試練を経て、「エゼキエル書」に預言されているように、谷のなかにある枯れた骨に息を吹きかけると、骨に筋が現われ肉が生じ、皮膚で覆われはじめ生き返るようになったのです〔Eze 37：1-6〕。

この預言の通り、イスラエルは太陽暦の1948年5月14日に再建されました。

エゼキエル書

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/ezekiel.html>

〔Eze 37：1〕 主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。〔Eze 37：2〕 彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、**谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。**〔Eze 37：3〕 彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」。わたしは答えた、「主なる神よ、あなたはご存じです」。〔Eze 37：4〕 彼はまたわたしに言われた、「これらの骨に預言して、言え。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。〔Eze 37：5〕 主なる神はこれらの骨にこう言われる、見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れて、あなたがたを生かす。〔Eze 37：6〕 わたしはあなたがたの上に筋を与え、肉を生じさせ、皮でおおい、あなたがたのうちに息を与えて生かす。そこであなたがたはわたしが主であることを悟る」。

イスラエルが再建国し68年経た2016年10月18日、私は天照大御神さまから、私の夢の枕で次の要請を受けました。

「日本神道の格式と様式を整え、古代ユダヤ遺跡発掘65周年の式典を開催し、ダニエル書9章の預言を成し遂げてください」

「そして、ミカエルの救いを表明してください」

つまり、「エルサレムを建て直せ」という命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あり」〔Daniel 9:25〕、「わたしを助けて、彼らと戦う者は、あなたがたの君ミカエルのほかにはありません」

〔Daniel 10:21〕とダニエルは預言しているので、天照大御神さまを頂点とする日本神社界の総意として、イスラエル建国69周年の記念式典を開催することを求められたのです。

天照大御神さまからの要請に基づいて、2017年5月14日淡路島で魚谷佳代さんと私はイスラエル建国69周年記念式典を開催しました。当時のことを振り返ってみると、天照大御神さまが私に要請された2016年から「最後の一週」〔Daniel 9:27〕が始まった感想をもちます。

ダニエル書

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/daniel.html>

〔Daniel 9:24〕 あなたの民と、あなたの聖なる町については、七十週が定められています。これはとがを終らせ、罪に終りを告げ、不義をあがない、永遠の義をもたらし、幻と預言者を封じ、いと聖なる者に油を注ぐためです。〔Daniel 9:25〕 それゆえ、**エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週ある**ことを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。〔Daniel 9:26〕 その六十二週の後にメシヤは断たれるでしょう。ただし自分のためにではありません。またきたるべき君の民は、町と聖所とを滅ぼすでしょう。その終りは洪水のように臨むでしょう。そしてその終りまで戦争が続き、荒廃は定められています。〔Daniel 9:27〕 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廢するでしょう。また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです。〕

〔Daniel 10:21〕 しかしわたしは、まず真理の書にしるされている事を、あなたに告げよう。わたしを助けて、彼らと戦う者は、あなたがたの君 **ミカエル**のほかにはありません。

天照大御神さまが私に要請してきた背景は、1948年5月14日にイスラエルが再建国されましたが、イスラエルにまだ失われた10部族が帰還していない事情があるからです。そのため、ユダヤ人の意識の深層で、また再び「骨が枯れ、望みがつき、われわれは絶え果てる」という不安に襲われるのです〔Eze 37:11〕。

エゼキエル書

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/ezekiel.html>

〔Eze 37:10〕 そこでわたしが命じられたように預言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となった。〔Eze 37:11〕 そこで彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言う、『われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる』と。

墓を開き、墓から取り上げ、イスラエルの地に入らせる、と主が約束している〔Eze 37:12〕にも関わらず、まだ墓が開かれていないのです。

「エゼキエル」〔Eze 37:12-13〕が預言している墓は、おそらく日本の淡路島にあります。

エゼキエル書

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/ezekiel.html>

〔Eze 37 : 12〕 それゆえ彼らに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、**わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。**〔Eze 37 : 13〕 **わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。**〔Eze 37 : 14〕 わたしがわが霊を、あなたがたのうちに置いて、あなたがたを生かし、あなたがたをその地に安住させる時、あなたがたは、主なるわたしがこれを言い、これをおこなったことを悟ると、主は言われる」。

あなたがたユダヤ民族は主の旗を掲げ、淡路島の古代ユダヤ遺跡を発掘する必要があると思います。あなたがたが淡路島で主の御旗を掲げるとき、私は日本のイザナギの旗で応えたいと思います。

主があなたがたに約束された時が近づいているのだと思います。ヘブライ語のアルファベットは 22 文字です。主があなたがたにヘブライ語を与えられているので、22 は最後（終わり）を示しています。だから、2022 年は主があなたがたユダヤ人に約束された最後の時になっているはずで、日本語の神道は、ヘブライ語のアルファベットで 21 番と 22 番の「ש」(シン) と「ח」(トゥ) です。

だから、日本神道の頂点にいらっしゃる天照大神さまが私に要請してこられたのだらうと思います。

私が書いた論考は、ユダヤ民族が成し遂げるべき恒久的平和の扉の鍵になります。

私の論考は 2018 年 5 月 18 日に完成しました。私はすぐにヘブライ語に翻訳できる業者に問い合わせをしました。ところが、翻訳業者に問合せをした瞬間から、私は腰痛に見舞われました。世界情勢を鑑みると時間の猶予がないので、直接神に尋ねました。

「神が予定されている翻訳者がいるのなら、その翻訳者を探すので、私の腰痛を癒してください。」

翌日、私の腰の痛みがス〜ッとなくなりました。ということは、神はヘブライ語の翻訳者を決めているということです。次に、私は独力で英語の翻訳を始めましたが、同じように腰痛になりました。英語の翻訳者も神が決められているのでしょう。

すぐに、私の数人の友人に

「あなたが英語に翻訳できるのではないですか？」

と聞き続けました。幾人かは

「翻訳できる」

という回答だったのですが、いったん挑戦してみると、日本神話と創世記の関係について翻訳することは非常に難しいという回答になっていきました。

日本神話はとても難しく、しかも、「創世記」は人類史上最も研究されている文書であるため、翻訳に挑戦することに畏れを抱いてしまうのです。

翻訳をやり遂げられる方は徹底的に研究された方か、何も知らない若い挑戦者しかいないのかもしれない。

年が明け、2019 年 2 月 11 日、ついに翻訳者が現われました。翻訳者は 22 歳の女の子で、名を「ひかる」

といいます。この「ひかる」という名は、創世記の「光あれ」の「光」です。ヘブライ語のアルファベットは22文字ですが、2019年2月11日現在の彼女の年齢と同じです。彼女は私の論考を翻訳することで初めて日本の神話と「創世記」に触れるのです。

彼女の翻訳も難航し、私が最終の翻訳文を手にしたのは7か月後の2019年9月20日でした。

翻訳された英文に苦勞の跡が滲んでいる。

彼女の翻訳文を土台に、私の娘の実加の協力を得て翻訳文と日本語の整合性を整える作業に入り、2020年1月3日に推敲作業が終了しました。

推敲作業をしている期間内の、2019年10月22日に天皇陛下の即位の礼が行われ、11月14-15日に大嘗祭が行われました。12月4日の宮中三殿における天皇陛下の儀式で、日本の御代替わりの諸儀式が全て終了しました。

さらに、2019年12月12日のイギリスの総選挙で、ジョンソン首相が率いる保守党が圧勝し、EU離脱の流れが決まりました。推敲作業が終了した2020年1月3日にアメリカ軍はイランのガセム・ソレイマニ司令官を無人偵察機によって殺害しました。

この翻訳に関わっている2年の間に、世界情勢は激変しました。

世界情勢は、聖書が預言している時代のど真ん中にいます。

2019年10月22日の天皇陛下の即位の礼は、聖書の預言上、特別な位置にあると思われますので、まず最初にお知らせしましょう。

◇2019年10月22日の天皇陛下の即位の礼。

2019年10月22日に新天皇陛下が即位を内外に宣言する「即位礼正殿の儀」が開催されました。

日本が国や国際機関として承認している195か国の元首などが招待されました。このうち、193か国が国連に加盟しています。

北朝鮮は国連に加盟していますが日本が承認していないので招待されていません。また、内戦が続くシリアは「アサド政権の非人道性が指摘されている」ことを理由に招待されていません。

主要国の王族をはじめ、西側諸国の代表の他、中東からも多くの国の代表が出席されました。

ヤッファ・ベンアリ駐日イスラエル大使、

パレスチナ自治政府のアッバス議長、

イランのラヤ・ジョネイデ法務担当副大統領、

サウジアラビアのトゥルキ・ビン・モハメド王宮府顧問兼国務大臣、

エジプトのカレード・アル・アナニ考古大臣、

レバノンからはニダル・ヤヒヤー特命全権大使（His Excellency Mr. Nidal YEHYA）。

その他、バチカンからはフランチェスコ・モンテリージ枢機卿が参加しています。

国連のような会合を除いて、おそらく世界最大規模の参加者を目の前にした儀式になりました。

「即位礼正殿の儀」は、朝から雨が降っていましたが、午前中の宮中三殿への御報告を終え、午後の「即位礼正殿の儀」が始まる直前に雨が止み、皇居に虹がかかりました。

「創世記」では、虹は契約のしるしです〔9：12-17〕。

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/genesis.html>

〔創 9：12〕 更に神は言われた。

「あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々としえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。〔創 9：13〕 すなわち、**わたしは雲の中にわたしの虹を置く。** これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。〔創 9：14〕 わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れると、〔創 9：15〕 わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべての肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。〔創 9：16〕 雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべての肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。」



◇ 「即位礼正殿の儀」

「即位礼正殿の儀」の儀式の進行は、「ヨハネの黙示録」〔黙 10：1-3〕を見ているかのようなものでした。

ご紹介したように10月22日の即位の礼のときは、雲が晴れ、虹が現われました。

- 〔1〕 天皇陛下は、皇居の頭上に虹がかかっている時、世界各国の皆さんの前に登場しました。
- 〔2〕 天皇陛下は太陽神・天照大神の直系子孫なので、「顔は太陽」のようなのです。
- 〔3〕 「即位礼正殿の儀」で、天皇陛下は「開かれた小さな巻物」を持っています。
- 〔4〕 日本が国として承認している195か国の元首などの前で、御言葉が述べられました。



「ヨハネの黙示録」〔黙 10 : 1-11〕

〔黙 10 : 1〕 わたしは、もうひとりの強い御使が、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭に、虹をいただき、その顔は太陽のようで、その足は火の柱のようであった。〔黙 10 : 2〕 **彼は、開かれた小さな巻物を手に持っていた。** そして、右足を海の上に、左足を地の上に踏みおろして、

〔黙 10 : 3〕 ししがほえるように大声で叫んだ。彼が叫ぶと、七つの雷がおのおのその声を発した。

〔黙 10 : 4〕 七つの雷が声を発した時、わたしはそれを書きとめようとした。すると、天から声があつて、「七つの雷の語ったことを封印せよ。それを書きとめるな」と言うのを聞いた。〔黙 10 : 5〕 それから、海と地の上に立っているのをわたしが見たあの御使は、天にむけて右手を上げ、〔黙 10 : 6〕 天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを造り、世々限りなく生きておられるかたをさして誓った、**「もう時がない。〔黙 10 : 7〕 第七の御使が吹き鳴らすラツパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。」**

〔黙 10 : 8〕 すると、前に天から聞えてきた声が、またわたしに語って言った、「さあ行って、海と地との上に立っている御使の手に開かれている巻物を、受け取りなさい」。〔黙 10 : 9〕 そこで、わたしはその御使のもとに行って、「その小さな巻物を下さい」と言った。すると、彼は言った、「取って、それを食べてしまいなさい。あなたの腹には苦いが、口には蜜のように甘い」。〔黙 10 : 10〕 わたしは御使の手からその小さな巻物を受け取って食べてしまった。すると、わたしの口には蜜のように甘かったが、それを食べたら、腹が苦くなった。〔黙 10 : 11〕 その時、「あなたは、もう一度、多くの民族、国民、国語、王たちについて、預言せねばならない」と言う声が出た。

◇「即位礼正殿の儀」での天皇陛下のお言葉をご紹介します。

<即位礼正殿の儀の天皇陛下のおことば >

さきに、日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより皇位を継承いたしました。

ここに「即位礼正殿の儀」を行い、即位を内外に宣明いたします。上皇陛下が三十年以上にわたる御在位の間、常に国民の幸せと世界の平和を願われ、いかなる時も国民と苦楽を共にされながら、その御心を御自身のお姿でお示しになってきたことに、改めて深く思いを致し、ここに、国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。

国民の叡智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします。

◇イギリスのEU離脱、海から上ってくる一匹の獣〔黙 13 : 1〕。

日本の御皇室の諸儀式が2019年12月4日に全て終了しました。2019年12月12日、イギリス総選挙によってジョンソン首相が率いる保守党が圧勝し、EU離脱の方向を確定させました。EU側から見ると、イギリスの離脱は「ヨハネの黙示録」第13章1節の海から上がった獣の「頭の 하나가傷つけられた」〔13 : 1〕状態です。

ここでも、時代は「ヨハネの黙示録」第13章を語れるようになっている。

「ヨハネの黙示録」第 13 章

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 13 : 1〕 わたしはまた、**一匹の獣が海から上って来る**のを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。〔Re 13 : 2〕 わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のものであつた。龍は自分の力と位と大なる権威とを、この獣に与えた。〔Re 13 : 3〕 その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、〔Re 13 : 4〕 また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。

〔Re 13 : 5〕 この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。〔Re 13 : 6〕 そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。〔Re 13 : 7〕 そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

〔Re 13 : 8〕 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう。〔Re 13 : 9〕 耳のある者は、聞くがよい。〔Re 13 : 10〕 とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。

◇地中から上って来るもう一匹の獣〔黙 13 : 11〕。

「ヨハネの黙示録」では、海から上がってきた獣〔黙 13 : 1〕の次に、もう一匹の獣が地中から上ってきます〔黙 13 : 11〕。

2020 年 1 月現在の国際情勢では、「地中から上がってくる、小羊のような 2 本の角をもつ獣」はまだ登場しているようにはみえません。ところが、極東の北朝鮮と中東のイランに対するアメリカの政策に引きずられる形で、中国とロシアは強固な経済軍事同盟を締結する方向に動いています。

プーチン大統領は、ロシアと中国との軍事同盟締結で米国との対立が決定的になるのを避けるため「中国との軍事同盟は存在せず、結ぶ計画もない」（2019 年 12 月 19 日のプーチン氏の発言）と強調していますが、北朝鮮とイランの問題処理次第では、ロシアと中国との軍事同盟締結の方向に動かざるを得なくなると思います。習近平国家主席を「核心」と表現している中国の社会主義体制は、中国の世界最先端の 5G というコンピューターシステムを用いて民衆統治をする。

ロシアと中国の 2 国の強固な経済軍事同盟なので、「角が二つ」〔黙 13 : 11〕と表現され、習近平国家主席とプーチン大統領という権力者を敬うことを求められるので「小羊のような」〔黙 13 : 11〕という修飾語が与えられるのでしょう。

イギリスの EU 離脱で揺れた EU が、混乱を回復するころ、中国とロシアが強固な経済軍事同盟を結ぶ可能性があります。

小羊のような 2 本の角をもつ地中から上ってきた獣は、初めの獣（EU）の商習慣を 5G というコンピューターシステムを用いて行います。中国の社会主義体制に反対する勢力には、「火を天から地に降らせ」て〔Re 13 : 13〕制圧されるらしい。

北朝鮮がらみの極東の情勢がキッカケとなって、中国とロシアは、「東と北からの知らせに危険を感じ」〔ダニエル 11 : 44〕、強固な経済軍事同盟を締結していく可能性があります。そして、中国とロシアの強固な経済軍事同盟である「地中から上って来るもう一匹の獣」〔黙 13 : 11〕は、「多くの者を滅ぼし絶やそうと、大いに激昂して進軍」していくのです〔ダ 11 : 44〕。

世界情勢が進展していくと中国とロシアの強固な経済軍事同盟は、EU と何らかの協定を結ぶらしい。地から上がってくる獣〔黙 13 : 11〕は EU の商業圏を利用することにより、EU と共にユーラシア大陸の独裁的繁栄を目指すことになるらしい。

「ヨハネの黙示録」第 13 章 11-18

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 13 : 11〕わたしはまた、**ほかの獣が地から上って来るのを見た**。それには**小羊のような角が二つ**あって、龍のように物を言った。〔Re 13 : 12〕そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。〔Re 13 : 13〕また、大いなるしるしを行って、人々の前で**火を天から地に降らせること**さえした。〔Re 13 : 14〕さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。〔Re 13 : 15〕それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。〔Re 13 : 16〕また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、〔Re 13 : 17〕この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。〔Re 13 : 18〕ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である。

◇エルサレムに建設される第三神殿。

「黙示録」第 10 章の次に、エルサレムの第三神殿について記載していると思われる「黙示録」第 11 章があります。現代の我々が、「黙示録」が示している時の状況を歩んでいるとするなら、イギリスが EU から離脱する頃に、エルサレムに第三神殿が建設されることになるのでしょう。

現在のエルサレムには、測りざおで量る「神殿」〔Re 11 : 1〕がないのです。

日本の喩でいうと、伊勢神宮と出雲大社が無いのに等しい。

第三神殿の建設は、ユダヤ民族にとって民族の象徴としての悲願になっている。

「ヨハネの黙示録」第 11 章 1-12

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 11 : 1〕それから、わたしはつえのような測りざおを与えられて、こう命じられた、「さあ立って、神の聖所と祭壇と、そこで礼拝している人々とを、測りなさい。〔Re 11 : 2〕聖所の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはならない。そこは異邦人に与えられた所だから。彼らは、四十二か月の間この聖なる都を踏みにじるであろう。

ダニエル書 12 章でも、「終わりの時」には、常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる〔ダニエル 12 : 11〕と指摘しているので、おそらく第三神殿が存在しているのです。

つまり、預言の時には第三神殿が建設されているらしい。

「ダニエル」第 12 章 4-13

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/daniel.html>

〔ダニエル 12 : 4〕ダニエルよ、あなたは**終りの時**までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」。

〔ダニエル 12 : 6〕わたしは、かの亜麻布を着て川の水の上にいる人にむかって言った、「この異常なできごとは、いつになって終るでしょうか」と。

〔ダニエル 12 : 11〕**常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきもの**が立てられる時から、千二百九十日が定められている。〔ダニエル 12 : 12〕待っていて千三百三十五日に至る者はさいわいです。

〔ダニエル 12 : 13〕しかし、終りまであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう」。

アメリカのトランプ大統領は、2018 年 5 月 14 日に米大使館をエルサレムに移転しました。

時の鐘を告げるイギリスのビックベンは、その年 2018 年 8 月 21 日から修復工事に入り、2021 年に再び鳴りはじめます。おそらくビックベンが再び鳴り響くとき、イギリスが EU から離脱し、エルサレムには第三神殿が建設されるのでしょ

しかし、建設された第三神殿は、異邦人に踏みにじられると預言されている〔Re 11 : 2〕。

異邦人によって踏みにじられたエルサレムの第三神殿は、1290 日から 1335 日〔ダニエル 12 : 12-13〕の後に、解放されるとダニエルは預言しています〔ダニエル 12 : 11-12〕。

◇トランプ大統領の誕生と第四の天使のラッパ、災いを告げる「一羽のワシ」〔黙 8 : 12〕。

2017年1月にアメリカにトランプ大統領が誕生し、第四の天使のラッパが吹かれました〔黙 8 : 12〕。同時に災いを告げる「一羽のワシ」〔黙 8 : 12〕が中空を飛んだのです。

アメリカの国章はワシで象徴される。



「黙示録」第8章 12-13

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 8 : 12〕 第四の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るなくなり、夜も同じようになった。

〔Re 8 : 13〕 また、わたしが見ていると、**一羽のわし**が中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわいだ、わざわいだ、地に住む人々は、わざわいだ。なお三人の御使がラッパを吹き鳴らそうとしている」。

◇第五の天使のラッパ、一つの星が天から地に落ちて来る〔黙 9 : 1〕。

2017年1月にトランプ大統領が就任してから、北朝鮮の金正恩最高指導者と3回の会談を行いました。

2018年6月12日、シンガポールのセントーサ島での会談。

2019年2月26日、ベトナム・ハノイでの会談。

2019年6月30日、史上初めて板門店での米朝首脳会談。

首脳会談を3回行っても朝鮮半島の非核化の展望は立たず、北朝鮮への経済制裁は解除されませんでした。北朝鮮の経済的困窮は極めており、2019年12月28日から12月31日の4日間にわたって党中央委員会総会が開催され、米側が経済制裁で譲歩をしないのなら「人民が受けた苦痛の対価」を受け取るため「衝撃的な実際の行動に移る」と宣言しました。

「衝撃的な実際の行動」として2つの可能性が予測されていました。

- (1) 新型核弾道弾の発射実験し、アメリカを威嚇すること。
- (2) 北朝鮮の核とICBM技術をイランなどの中東諸国に販売し経済的実利を得ること。

イランの対外戦略の最高責任者はソレイマニ司令官だったので、北朝鮮との交渉でも責任ある位置にいたのかもしれませんが。そのソレイマニ司令官が、2020年1月3日にアメリカ軍に暗殺されました。

北朝鮮の党中央委員会総会が終了して、3日後の出来事です。

北朝鮮の国章は星が一つなので、北朝鮮の国際環境と経済状況は「ヨハネの黙示録」が指摘する第五のラッパが吹き鳴らされ、「一つの星が天から地に落ちて来る」〔Re 9 : 1〕のような緊迫状態になっています。



「黙示録」第9章1

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 9：1〕 第五の御使が、ラッパを吹き鳴らした。するとわたしは、一つの星が天から地に落ちて来るのを見た。この星に、底知れぬ所の穴を開くかぎが与えられた。

◇イランとアメリカの関係は今世紀最大の危機に直面、第六の天使のラッパ〔黙 9：13〕。

2020年1月3日、イラン革命防衛隊（IRGC）の精鋭部隊「コッズ部隊（Quds Force）」のガセム・ソレイマニ司令官がアメリカ軍の無人偵察機によって殺害されたと、世界のトップニュースとして伝わってきました。ソレイマニ司令官の喪が明けた2020年1月7日、イランがイラク駐留米軍に向けて十数発の弾道ミサイルを発射しました。

イランをめぐる中東情勢は、今世紀最大の危機に直面しています。

「黙示録」では第六の天使がラッパを吹くと、人間の1／3を殺すために「大ユウフラテス川のほとりにつながれている四人の御使」が解き放たれ、第二の災いがやってくる〔黙9：13-21〕と預言されています。

第六の天使のラッパ〔黙9：13〕は、第五の天使がラッパ〔黙9：1〕と密接に結びついているのです。

「黙示録」第9章12-21

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔Re 9：12〕 第一のわざわいは、過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。

〔Re 9：13〕 第六の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、〔Re 9：14〕 ラッパを持っている第六の御使にこう呼びかけるのを、わたしは聞いた。「大ユウフラテス川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ」。〔Re 9：15〕 すると、その時、その日、その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。〔Re 9：16〕 騎兵隊の数は二億であった。わたしはその数を聞いた。〔Re 9：17〕 そして、まぼろしの中で、それらの馬とそれに乗っている者たちとを見ると、乗っている者たちは、火の色と青玉色と硫黄の色の胸当てをつけていた。そして、それらの馬の頭はししの頭のようにあって、その口から火と煙と硫黄とが、出ていた。〔Re 9：18〕 この三つの災害、すなわち、彼らの口から出て来る火と煙と硫黄とによって、人間の三分の一は殺されてしまった。〔Re 9：19〕 馬の力はその口と尾とにある。その尾はへびに似ていて、それに頭があり、その頭で人に害を加えるのである。〔Re 9：20〕 これらの災害で殺されずに残った人々は、自分の手で造ったものについて、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐいや、金、銀、銅、石、木で造られ、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を礼拝して、やめようとしなかった。〔Re 9：21〕 また、彼らは、その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを悔い改めようとしなかった。

◇第七の天使のラッパ〔黙 11：15〕が近づいている。

2020年1月31日、イギリスのEU離脱は確定し、2020年末を目処にイギリスはEUから離脱することになりました。EUとイギリスは離脱協議を重ねながら、イギリス離脱のダメージを回復することになります。

2021年に時を告げるビックベンの鐘がなります。

イギリスのビッグベンが時の合図になって、第五の天使のラッパ〔黙9:1〕が鳴り、「一つの星が天から地に落ちて来る」〔黙9:1〕のです。

極東の北の星が天から地に落ちるといふ「東と北からの知らせに危険を感じ」〔ダニエル11:44〕、中国とロシアは、強固な経済軍事同盟を締結して行くのでしょうか。そして、中国とロシアの強固な経済軍事同盟である「小羊のような角が二つある地から上って来る獣」〔黙13:11〕は、「多くの者を滅ぼし絶やそうと、大いに激昂して進軍」して行くのです〔ダ11:44〕。

こうして、第六の天使のラッパが吹かれ、人間の1/3を殺すために「大ユウフラテス川のほとりにつながれている四人の御使」が解き放たれ、第二の災いの時期に入っていきます〔黙9:13-21〕。

2019年10月22日に、日本で新天皇陛下が即位を内外に宣言する「即位礼正殿の儀」が開催されたことによって、世界情勢を「ダニエル書」と「ゼカリヤ書」、「ヨハネの黙示録」を紐解きながらリアルタイムで語れるようになりました。

もう少しで、第七の天使のラッパが吹かれ、「神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される」〔黙10:6〕時が近づいているのでしょうか。

「黙示録」第10章5-7

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/revelation.html>

〔黙10:5〕それから、海と地の上に立っているのをわたしが見たあの御使は、天にむけて右手を上げ、〔黙10:6〕天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを造り、世々限りなく生きておられるかたをさして誓った、**「もう時がない。〔黙10:7〕第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される」。**

◇「ゼカリヤ書」、三分の一は生き残る〔ゼカ13:8〕。

「黙示録」の告げる未来は、第六の天使が吹くラッパが合図となって世界戦争がおこり、世界の人口の1/3が亡くなります。次、第七の天使が吹くラッパが合図となって地球規模の天変地異が発生し、世界の人口の1/3が亡くなります。

その結果、「ゼカリヤ書」〔ゼカ13:8〕が預言しているように世界の人口は現在の1/3になってしまうらしい。

「ゼカリヤ」第 13 章 7-9

<https://bible.salterrae.net/kougo/html/zecariah.html>

〔ゼカ 13:7〕 万軍の主は言われる、
 「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。
 わたしの次に立つ人を攻めよ。
 牧者を撃て、その羊は散る。
 わたしは手をかえして、小さい者どもを攻める。
 〔ゼカ 13:8〕 主は言われる、全地の人のおよそ三分の二は断たれて死に、
 三分の一は生き残る。
 〔ゼカ 13:9〕 わたしはこの三分の一を火の中に入れ、
 銀をふき分けるように、これをふき分け、
 金を精錬するように、これを精錬する。
 彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。
 わたしは『彼らはわが民である』と言ひ、彼らは『主はわが神である』と言う。

日本神話でも、イザナギとイザナミの約束の結果、命あるものは三分の一が残されることになっている。
 イザナギとイザナミが、黄泉比良坂で、誓う時、
 イザナミは、イザナギの領域の命を 1000 人食い殺すと宣言し、イザナギは 1500 の人体を作ると宣言して
 いる。その結果、 $1500 - 1000 = 500$ 残ることになる。
 つまり、イザナギとイザナミが再会する時、世界の命あるものは現在の $1 / 3$ になるのです。
 日本神話では、天の母は亡くなっているので、「天にまします我が父」とは、イザナギのことです。
 日本神話と、「ゼカリヤ書」〔ゼカ 13:8〕は同じ地平で読み込むことができます。

今私たちは、神が預言している時代のど真ん中にいます。
 もっと緩やかに、みんなで楽しく次の時代に入って行く道もあるはずです。
 あなたがたユダヤ人が主の旗印を掲げ淡路島の古代ユダヤ遺跡を発掘する作業が、次の時代を開く鍵を提
 供してくれると信じています。

主の栄光があなたがたと共にありますように。
 私たちはあなたがたに会えるのを楽しみにしています。

January 9 2020

Author: Toru Narita

Translator: Hikaru

Translation adviser: Mika

Please inquire at the email address below
 naritatooru@gmail.com